

令和 7 年中の山岳遭難発生状況

(数値は暫定値です)

【令和 7 年中の山岳遭難発生状況】

発生件数	遭難者数	
49件 (-2)	63人 (+7)	
死亡・行方不明	負傷者	無事
0人 (-4)	29人 (+4)	34人 (+7)

過去最多

() 内は前年対比

【年齢別発生状況】

() 内は前年対比

10歳未満	0人(-1)	50代	8人(±0)
10代	13人(+12)	60代	11人(-3)
20代	10人(+5)	70代	13人(±0)
30代	4人(-1)	80歳以上	2人(-2)
40代	2人(-3)		



大分県電子申請システム



【遭難の態様】

() 内は前年対比

転倒 滑落	道迷い	疲労	病気	その他
21件 (+3)	19件 (±0)	5件 (-1)	2件 (-2)	2件 (-1)

令和 7 年中、大分県内では『49件63人』の山岳遭難が発生しました。
 発生件数は過去 2 番目に多く (H27年・R 4 年・R 6 年に最多51件)
 遭難者数は過去 2 番目に多く (H27年に最多68人)
 負傷者数は過去最多 (R 6 年に 25 人) と高止まりの傾向です。
 令和 7 年の特徴として「転倒・滑落」「道迷い」が全体の約 8 割を占め、
 20代以下の遭難が急増しています。

遭難者の登山届提出率は『14.6%』と過去10年で最低です。

『登山届』は、

- 無理のない登山計画の確認
- 持ち物のチェック
- 遭難時、救助隊の重要な情報

となります。

『年齢や経験に応じた山選び』と『無理のない登山計画』で、
安全登山を心掛け、良い思い出を作りましょう。

